山田町合併50周年記念企画
History of yamada town

昭和30年～34年

1町4村が合併し山田町が誕生

▲市日風景（昭和30年代、中央町）

▲山田町役場（昭和31年）役場庁舎を旧山田高校校舎（場所は現在の町役場）へ移転

▲第１回山田町議会定例会（昭和30年）新山田町が誕生して初の予算が審議された。一般会計の予算額は6,939万円だった

七夕飾り（昭和32年ころ、中央町）

合併当初の財政再建

一町四カ村が合併して最初の決算（昭和二十九年度）は予想以上の赤字となり、赤字額は主要財源（税収入と地方交付税の合計額）の約五割に当たるものでした。主な要因は、財政需要の増加にもかかわらず地方公共団体に対する財源が伴わなかったことが挙げられます。このような状況は全国的であり、昭和二十九年度末には全国の市町村の約四割がいわゆる赤字団体となりました。

本町では地方財政再建促進特別措置法の適用を受けて、三十一年度から三十七年度までの財政再建計画を立て、財政再建団体として財政の建て直しに当たりました。財政の再建を図りつつ自治体としての本質的活動を保つことは極めて困難でしたが、財政再建期間中は、町税の増税は行わず、あくまでも消費的経費の節減に努めました。国や県の援助もさることながら町民の協力もあり、チリ地震津波災害の最大の試練を乗り越えて三十五年度には赤字を解消。計画より二年短縮して自立体として自立しました。

▲鯨の解体（昭和33年ころ）日東捕鯨株式会社に水揚げされたシロナガスクジラ。この後解体された

▲紙芝居風景（昭和30年代）娯楽の少なかった当時の子供たちにとっては、この紙芝居は数少ない娯楽だった

▲サンマ船の出航（昭和32年ころ）出航当日は朝早く壮行式が行われ、銅鑼の音も高らかに大漁旗が朝風になびかせながら出航した。岸壁には大漁と無事の航海を祈る町民が集まり、５色のテープで見送った

■主な出来事

元号（西暦）	主なできごと
昭和30年（1955） 3月	山田町、豊間根村、大沢村、織笠村、船越村の１町４村が合併し、新山田町が誕生
昭和31年（1956） 7月	船越保育園を開設
10月	県立山田高校校舎が関谷地区に新築落成。役場庁舎を旧山田高校校舎へ移転
昭和32年（1957） 4月	職業補導所を開設
7月	十二神山に自衛隊が駐屯
昭和33年（1958） 10月	大浦小学校校舎が新築落成
昭和34年（1959） 2月	十二神基地米軍解散
11月	大釜崎ロラン局が開局

▲荒神社の祭典（昭和30年代）「ダンベ」という木製の船。現在よりも船の数も多く、にぎやかであった

サンマ漁船に乗った

あの日あの時

佐々木信夫（のぶお）さん
（境田町・73歳）

昭和30年代のサンマ漁船の解禁日はとてもにぎやかでした。ちょうど昭和32年ごろには、推されて船頭（漁労長）になった時で、とても印象に残っています。山田漁港には約40隻、最盛期には50隻以上が夜明け前からエンジンをかけて待機し、岸壁は船で埋まりました。当時はまだ木造船で、40～50ﾄﾝくらいの大きさだったと思います。漁船には大漁旗が掲げられ、見送りに来た大勢の町民と船との間には５色のテープも渡され、とても華やかでした。各船からは音楽がガンガン鳴り、今でいう秋祭りのようなにぎわいでした。午前６時ごろには、船長が出漁許可証を受け取ってテープを引きながら一斉に出航。これ以上エンジンが回らないほどの全速力で走りました。

小学校卒業と同時に家業の漁業を継ぎ、67歳まで漁師一筋で頑張ってきましたが、あのころは浜に活気がありました。あの時のような活気が戻ってほしいものです。